

## ベトナムの外交政策をどう見たらよいのであろうか

### 米越、日越関係から見て

#### 1) はじめに

7月23日米国のポンペオ国務長官が、「共産主義中国と自由世界の未来」と題して、猛烈な反中国批判演説を行いました。この演説は、単に中国の習近平政権、中国共産党を批判するのではなく、「共産主義は、ほとんど常にウソをつくものだ」と、共産主義そのものを全否定するものでした。その演説の終わりで、司会者のヒュー・ヘウィットが、「あなたは、今日、ヨーロッパとはかなり簡単に腹を割って話ができると強調したが、台湾、ベトナム、日本、オーストラリアなどとも腹を割って話ができ、これらの国は米国を信頼するであろうか」と聞いたことに対し、ポンペオ国務長官は、「もちろん、もちろんだ」と答えました。ここで私の注目を引いたのは、ベトナムが、台湾、日本と同列に米国にとって信頼関係が置ける国として扱われていることです。

#### 2) 米越関係はどう変わってきているのか

「抗米救国の戦い」を1955年から75年まで20年にわたり戦い、800万人以上の犠牲者の上に主権と独立を守ったベトナムが、今や、米国と密接な関係にあるとはどういうことなのでしょう。それを考えるために、防衛研究所 地域研究部米欧ロシア研究室長庄司智孝氏の論文、「ベトナムの対米安全保障協力—歴史的経緯、現状と将来の展望」(2018年)、「ベトナムの対米安全保障協力—米空母「カール・ビンソン」ダナン寄港の戦略的意味」(2019年)、U.S.-Vietnam Relations, US Department of State HP) などから、以下の年表を作ってみました。

1995年、ベトナム、アメリカとの国交を正常化したベトナムは同時に、同国と安全保障での協力を踏み出す

2009年以降、南シナ海を航行する米空母がベトナムの沖合に一時停泊し、ベトナム軍・政府関係者が空母を訪問する交流行事が開催されるようになった

2010年8月、空母「ジョージ・ワシントン」がダナンの沖合に停泊した際、両国海軍間で捜索救難の共同演習が初めて実施される

2010年の**共同演習を機に対米安保協力を本格化**させる

2010年8月、次官級の米越国防政策対話の初会合がハノイで開催され、以後両国はワシントンかハノイで毎年対話を実施している。

2011年9月、「**防衛協力の推進に関する覚書**」が締結される

2013年7月、オバマ大統領、航海、経済、環境、教育、人権問題について、米越包括的パートナーシップ提唱

2014年10月、米越書核平和利用協定を締結

2015年7月、**ベトナム共産党書記長による史上初の訪米**が実現、米越共同声明発表

2016年5月、アメリカは対越武器禁輸措置の完全撤廃を宣言。米越、法の支配と犯罪裁判に関する協力合意書に署名。

2016年10月、米海軍の戦闘艦2隻が初めてカムラン湾に入る

2017年6月、グエン・スアン・フック首相が東南アジアの政府首脳として初めてワシントンを訪問してトランプ大統領と会談。米越共同声明発表

2017年8月、ゴ・スアン・リック国防相がワシントンを訪問し、マティス国防長官と会談。両国はその際、2018年に米海軍空母がベトナムに初めて寄港することで合意。米越共同声明を発表し、人道的医療支援協力のワーキンググループを設置

2017年11月にはトランプ大統領がダナンでのアジア太平洋経済協力(APEC)会議に出席後ハノイに移動し、グエン・フー・チョン共産党書記長と会談。米越共同声明発表。

2018年1月にマティス国防長官がベトナムを訪問した際、両国は寄港を正式に発表する

2018年3月5日、米海軍の大型空母「カール・ビンソン」がベトナム中部のダナンに寄港した。これはベトナム戦争後、米海軍空母初のベトナム寄港であった

こうして見ると、米越関係は、包括的パートナーとして、驚くべき親密な関係にあることが分かります。

### 3) 日越関係はどう進んでいるのか

ベトナム戦争で日米安保条約のもとで米国の支援国として、米空軍基地、海軍基地の使用に協力した日本との関係はどのようなもののでしょうか。日本の外務省のHPを辿ってみると次の様な記事が目につきます。

#### 15.09.15 外務省 HP 安倍総理大臣とチョン・ベトナム共産党書記長の会談（結果）

冒頭、安倍総理大臣から、ベトナムの最高指導者であり、日本の旧い友人であるチョン書記長の5度目の訪日を心より歓迎する、自分は総理就任後の最初の外国訪問先にベトナムを選んだが、その際お会いして以来のチョン書記長との再会を嬉しく思う、我が国とベトナムの間で「広範な戦略的パートナーシップ」に基づき、協力が進展してきていることは大変喜ばしい、友好協力関係を益々発展させていきたい旨述べました。これに対し、チョン書記長からは、今般の日本政府による招待また盛大に歓迎頂いたことに心より感謝する、安倍総理大臣のベトナム訪問の際お会いして、安倍総理大臣に対して素晴らしい印象を持っていた、自民党総裁への再選を心よりお祝いする、また先般の日本における台風被害を受けた被災者の方に心よりお見舞い申し上げます旨述べました。

チョン書記長は、ベトナムの一貫した政策として日本はベトナムにとって最重要なパートナーであるということ、今次訪日の目的は、「広範な戦略的パートナーシップ」を更に包括的に発展させ、進化させること、そのためにも、政治的信頼の一層の強化、経済連結性の強化、地域・国際場裡における協力の強化が重要である、両国間でハイレベルの往来をはじめとする交流の更なる強化を期待する旨述べた

#### 15.11.20 外務省HP 日・ベトナム首脳会談

(1) 安倍総理から、本年2度目のズン首相との首脳会談を嬉しく思う、明年のベトナム共産党大会の成功を祈念する旨述べ、新指導部とも、「広範な戦略的パートナーシップ」

に基づく二国間関係を更に強化したい旨言及しました。

(2) これに対し、ズン首相から**ベトナムの親友に会えて嬉しく思う**、党大会の成功に対するお言葉に感謝する旨述べると共に、二国間の「広範な戦略的パートナーシップ」の下、ハイレベルの往来や首脳間の合意に基づき、日ベトナム関係がさらに実質的かつ効果的に発展していると述べました。ズン首相は、日本とのあらゆる分野における協力関係の強化を特に重視している旨述べました。

(1) 安倍総理から、**ズン首相が「積極的平和主義」及び「平和安全法制（PDF）別ウィンドウで開く」に、支持と理解を示している**ことに謝意を表明しました。また、両国の共通の関心分野である海洋安全保障分野の協力の進展に満足の色を示しました。更に、昨年供与を表明した中古船について、間もなく2隻がベトナムに到着し、全6隻の引き渡し完了すること、また、新造巡視船の供与については、供与に向けた調査の開始を決定したことをズン首相に伝えました。

(2) **ズン首相から、「積極的平和主義」の取組に対し、改めて支持する**ことを表明し、「積極的平和主義」が、地域の平和と安定に貢献している旨述べました。また、ズン首相は、日本からの中古船の供与に謝意が示され、同協力が、ベトナムの海上法執行能力の不足という問題にとって重要な意義を有しており、新造巡視船へのODA供与を含め引き続き協力を希望する旨述べました。

#### 16.07.15 外務省 HP 日・ベトナム首脳会談

日・ベトナム首脳会談**フック首相より、お会いできて光栄、まず初めに参議院選挙での勝利に祝意を申し上げたい**旨の発言がありました。

これに対し安倍総理より、伊勢志摩サミットの際にご出席いただき感謝、再会できて喜ばしい、また、先般の参議院選挙での自民党勝利への祝意に感謝する、引き続き両国間の信頼関係を強化し、「広範な戦略的パートナーシップ」の下、あらゆる分野での協力を強化していきたい旨述べました。

安倍総理より、ダッカ襲撃テロ事件に対するASEAN外相声明の発出を評価、テロの根絶に向けてASEM首脳会議でも力強いメッセージを発出したい旨発言しました。また、**フック首相の指導の下、南シナ海の問題につき緊密な連携が実現している**、比中仲裁についてベトナムからも声明が発出されたと承知している、今月末のASEAN外相会議、9月のASEAN首脳会議に向けて、引き続き連携したい旨述べました。

これに対しフック首相より、**南シナ海の問題ではベトナムと日本が緊密に連携していくことが重要**であり、**ASEAN外相会議、首脳会議に向けて日本と協力・連携していきたい、国際法の遵守が地域のみならず国際社会の平和と安定にとって重要**であり、特に、海洋安全保障、航行・飛行の自由が確保されることが重要だと思っている、ベトナム政府は公式声明を発表したが、裁判の結果を完全に支持するというものであるとの発言がありました。安倍総理より、比中仲裁についての認識は完全に一致している、今後、引き続き緊密に連携していきたい旨述べました。

#### 17.06.06 外務省 HP 日・ベトナム首脳会談

安倍総理大臣から、昨年5月以来となるフック首相の訪日を歓迎、天皇皇后両陛下の御訪問の際の歓待、及び、本年1月の自身のベトナム訪問の際の歓待に謝意を表し、頻繁な首脳間の相互訪問を通じて日・ベトナム関係は飛躍的に発展している、今般のフック首相の訪日を通じ「**広範な戦略的パートナーシップ**」を一層深化させたい旨伝えました。

フック首相は、今次訪問に際しての暖かいおもてなしに感謝、**安倍総理大臣との再会を嬉しく思う、日本とベトナムは政治的信頼の下で全面的に発展、天皇皇后両陛下の御訪問は両国関係を更なる高みに引き上げた**、ベトナム・日関係への安倍総理大臣のご高配に心から感謝したい旨述べました。

フック首相からは、**アベノミクスによる成果を評価**、共同イニシアティブを通じ日本企業進出のための環境整備を進めたい、ベトナムのエネルギー分野や裾野産業等に対する日本企業の投資を歓迎

安倍総理大臣は、東南アジア、更にはインド太平洋地域の法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化に向けベトナムと協力していきたい、**護衛艦「いずも」のカムラン湾寄港やビエンチャン・ビジョンに基づく連携など防衛協力は緊密化している、巡視船供与を含む海上法執行能力向上や、** 捜索・救難分野の人材育成も引き続き支援する

フック首相からは、**日本とは戦略的利益を共有するパートナーであり安保協力を強化したい**、巡視船供与を含む海上法執行能力向上への支援を引き続き要請する、国防産業、国際テロ対策でも協力を進めたい等の発言がありました

#### 19.12.06 外務省HP 中山外務大臣政務官とタン・ホーチミン国家政治学院院長との会談

3 **双方はベトナムの共産党幹部への人材育成に関し、引き続き協力**していくことで一致しました。

#### 20.02.12 外務省HP 中山外務大臣政務官のベトナム訪問（結果）

中山政務官は、チュン外務次官と会談を行い、両国の「**広範な戦略的パートナーシップ**（PDF）」を強化するとともに、本年、ASEAN 議長国及び国連安保理非常任理事国であるベトナムと国際場裏においても緊密に連携していきたい旨述べました。

中山政務官は、昨年12月に続き、タン・ホーチミン国家政治学院院長と会談を行い、**ベトナム共産党幹部の人材育成を含む様々な分野における日越関係や**、新型コロナウイルス対策、南シナ海、北朝鮮情勢を含む国際場裏での協力等について意見交換を行いました。

#### 4) 東アジアの持続的平和共同体をめざして

日越両国が、広範な戦略的パートナーとして、安全保障面での関係を強化することは理解できますが、ベトナム政府が、総選挙における自民党の勝利を祝し、「アベノミクス」による成果を評価し、ベトナム共産党幹部の人材養成に安倍政権が協力するという点になると、違和感を感じるのは筆者だけでしょうか。アベノミクスの評価については、日本でも議論が大きく分かれていることですし、率直に言って、独占資本主義国の政府から幹部養成の協力を受ける共産党は、どういうマルクス主義の理念をもっているのであろうかという疑問がわいて

きます。社会主義を歩んでいるかどうかは、その国の外交政策でもって判断するものであるという見地があります。しかし、筆者は、判断の基準は、あくまで国内での社会変革をどう進めて社会経済構造を変革しているかにあると思っています。社会主義の道を歩んでいるかを外交政策に求める人々は、ベトナムは社会主義の道を歩んでいると言い切れるでしょうか。

ベトナム、米国、日本が東アジアの平和のための友好と連帯を探求することは、結構なことですが、そこには、中国包囲策としてのパートナーシップが見え隠れしています。筆者は、常にいかなる国も美化せず、リアルに見て、友好と連帯を進めることが重要と考えています。そういう点からすれば、東アジアでの持続可能な平和の共同体の構築の軸は、非同盟運動の原則である、非同盟、中立、主権の尊重、内政不干涉、対等、平等、互惠、相互尊重、領土保全、紛争の話し合いによる解決ということになるでしょう。今では、貧困・格差の解消、地球環境の保全も付け加わるでしょうか。ベトナム人民との友好と連帯もこうした基盤に立ってすすめたいものです。

(2020年8月11日 新藤通弘)